

防災だより

令和2年2月号

令和2年2月14日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部編集

☆今回のテーマ 過去に学ぶ

今月号はこの地域の地震の記録を紹介します。我々の周辺で起きた地震による被害について知ることで、地震をより身近に感じるとともに防災・減災について考えるきっかけとさせていただきます。

＝愛知県の主な地震被害＝

地震発生年月	愛知県の主な被害地
大正12年(1923)9月 関東地震	震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。落壁、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等で発生。
昭和19年(1944)12月 東南海地震	津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊・流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤崩壊あり。井戸の汚濁、水位変化もあり。
昭和20年(1945)1月 三河地震	震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆(西尾市)・碧海郡(西三河地域西部)方面を中心に大被害が集中。死者、家屋全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。
昭和21年(1946)12月 南海地震	震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及ぶ。死傷者、家屋の全半壊、流失、消失多数。

◆岡崎市の被災記録◆

岡崎市の過去の被災は、矢作川水系の水害が中心で、岡崎市街地は何度も浸水したことが岡崎市史に記されています。地震に関しては、昭和19年(1944)東南海地震の際に矢作川鉄橋付近で東海道線の地盤が陥没し不通となった他、紡績工場で外壁が倒壊し女工16人が圧死しました。昭和20年(1945)三河地震では、矢作町、六ツ美町、福岡町で建物の全壊・半壊が発生しています。

◆幸田町の被災記録◆

幸田町では昭和20年(1945)三河地震による被災が有名です。三河地震は昭和19年(1944)東南海地震の約1カ月後に発生した直下型地震で、深溝断層西側の狭い範囲内に被害が集中しました。この地震で幸田町内の各地に深溝断層の地割れ、段差等が現れました。ただ断層の両側で被害が大きく異なり、深溝断層の東側と北側では被害が小さく、西側で大きな被害となっています。三河地震は戦争中、しかも真夜中に発生した地震のため、長らく被害の全容が公表されず、また余震も多かったことから、当時の人々は不安を抱えながら生活していました。

参考資料：歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド 西三河編



嘉永7年(1854)安政東海・南海地震時に岡崎では「御城破損」があり、矢作川の橋が4～5間(7～9m)にわたって沈下したとされる。



深溝断層(幸田町大字深溝字小井文字)三河地震の際にできた断層で、最大落差は約1.5m、最大左ずれ変位量が約1m。

◆おがさき防災緊急メール「防災くん」：暴風警報などの警報情報や地震災害、南海トラフに関する情報を受け取ることができるサービスです。(岡崎市ホームページ参照)